

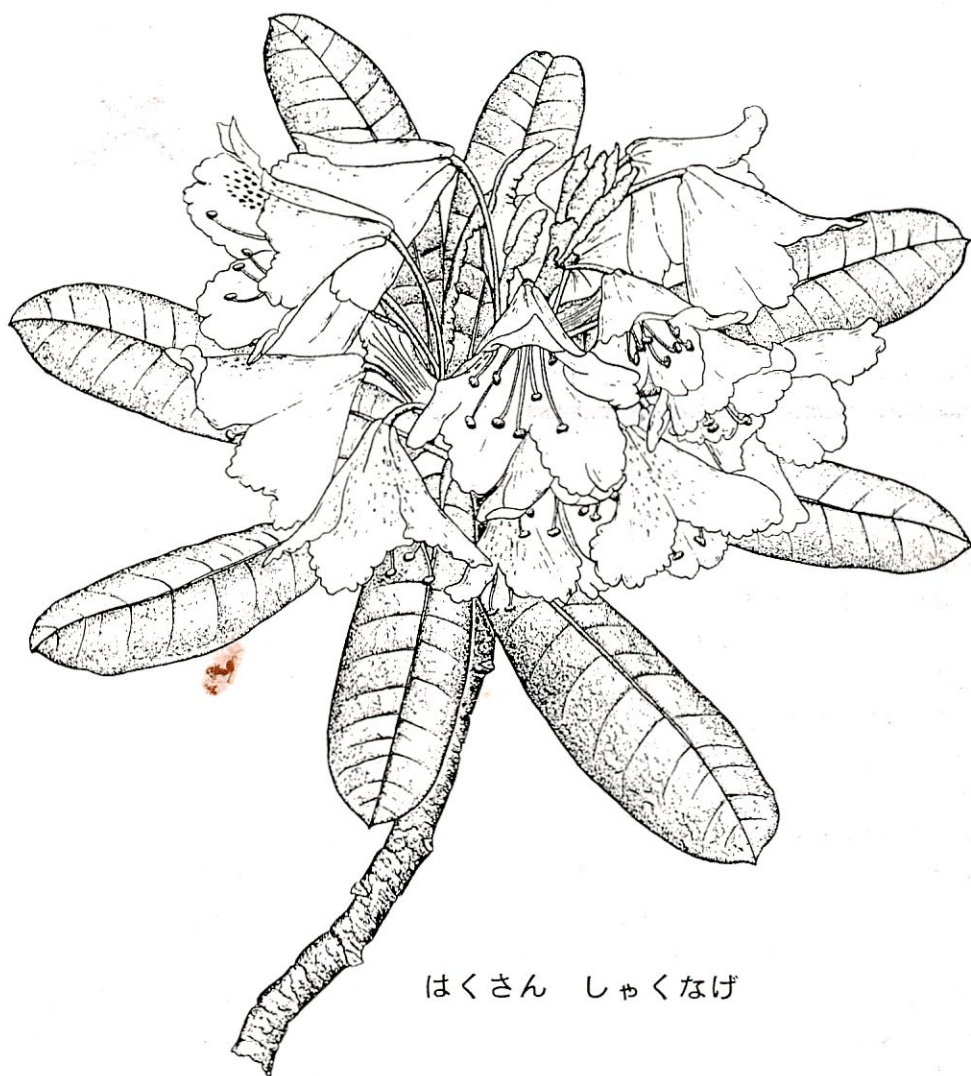
協議会ニュース

26号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

平成元年
7月

富士山に咲く花



はくさん しゃくなげ

富士山河口湖登山道 5 合目にて
1988.7.1 (辻)

季節の話題

火取蛾（ひとりガ）

夏は街燈に集まる昆虫の観察に最も適した時期です。子供達に人気のあるカブトムシやクワガタムシ・コガネムシ等の甲虫類を始めとしてカメムシ・トビケラ・カゲロウ・ハチ・カなどが集まってきますが、夜の主役は、やはりガ達です。

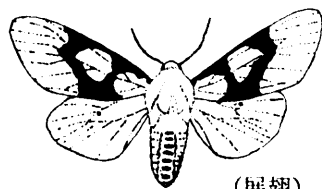
ガの仲間は、日本全国で3,000種もいますが、そのうちひとりガ科は70種程の小さなグループです。名前は「燈によく集まる蛾」という意味ですが、もちろん光に集まるのはひとりガだけではありません。まあ、光に集まるガの代表選手と思っておきましょう。

新月で蒸し暑く風がないような夜には、ものすごい数のガが光に集まってきます。そんなガの名前を調べようと思って図鑑を見ると、翅が展翅された状態の写真ばかりです。眼の前のガ達は皆、翅をとじて静止しています。この違いは非常に大きく、「この前翅が閉じると、ここに

あそこが連がって……確かにこの模様になる。」というような絵解き、謎解きとなります。ガの模様というのは、当然翅を閉じた時に意味があるはずですから、やはり図鑑にも自然な状態での模様を示す写真が欲しいものです。もっとも後翅に特徴のある種類もたくさんいますから、展翅した状態の写真も必要です。

標本を作らないで動植物の名前を調べるのは本当に難しく、遅々として進みませんが、皆さんもチャレンジしてみてください。

（北岡明彦）



（展翅）



（自然）

フタスジひとり

協議会ニュース26号目次

- ・ハクサンシャクナゲ……………（辻 伸夫）…表紙
- ・季節の話題 火取蛾……………（北岡明彦）…… 1
- ・表紙のことば ………………（辻 伸夫）…… 1
- ・会員紹介 ………………（石川静夫）…… 2
- ・特集 夏休み自然観察地案内
（編集委員会）…… 3
- ・会員広場
…（藤原優年・橋本 哲・降幡光宏）…… 7
- ・おたよりコーナー ………………（柳川菊蔵）…… 8
- ・マイウォッチング 全県一斉自然観察会
における調査結果報告…（運営委員会）… 9
- ・調査員募集（アミメカゲロウ発生状況調査）
（水生昆虫委員会）……11
- ・観察あれこれ 手作り名札（北岡明彦）……11
- ・支部だより ………………12
- ・協議会行事報告 ………………13
- ・行事案内 ………………15
- ・会員異動 ………………15
- ・お知らせ ………………15

“ハクサンシャクナゲ”

7月1日……富士山は山開き。

標高2,300 m、5合目の御中道はちょうど森林限界です。今まで林の中を歩いていたのに、急に涼しい風が……。そして残雪の雄大な富士が、突然姿を現しました。

そこで最初に私を迎えてくれたのが、このハクサンシャクナゲのみごとな花の群れでした。雄大な富士を背景にその花の堂々とした姿に、しばらく目をうばわれてしまいました。

ハクサンシャクナゲは白シャクナゲと言われるように薄いピンク色の花を咲かせ、花びらの中に緑色の斑点があるのが特徴です。冬の風雪、夏の強い日ざしに毎日耐えて来たことを、そのシャクナゲが語りかけてきます。曲がりくねった枝や、樹皮のゴツゴツした肌、「この樹たちは、力強く生きているなぁ」と思いました。

そして、いま私たちに、その美しくも堂々とした姿を見せつけてくれました。

富士山、河口湖登山道5合目にて

（西三河支部 辻 伸夫）

私 と 自 然

石川 静雄（奥三河支部長）



昆虫と同居の幼少年時代

私は昭和の初期（5年）に草深い片田舎の養蚕農家に生まれた関係で、幼少年時代から昆虫とは同居生活を余儀なくされました。

当時養蚕は我が国の重要産業のひとつでもありました。（国策として盛んに増産が計られていました。蚕室兼用の私の家も、この地方の養蚕農家としては平均的な規模の家でしたが、それでも年4回（春蚕・夏蚕・夏秋蚕・秋蚕）飼育するうちに大量に飼育する春蚕4齢期には家中カイコの飼育場になり、いわばカイコと同居暮しの日がしばらく続くことになります。また養蚕期はカイコ以外に色々な昆虫がクワの葉についてきますので、これらの昆虫等とも同居を余儀なくされます。

1例ですが、木の枝にそっくりのグロテスクなシャクトリムシ（シャクガ科）に体の寸法を計られ、迷信であろうが「死ぬぞ」と親に驚かされたり、昆虫ではないが背が黒く頭が赤褐色のムカデ（トビズムカデ）が寝具の中から突然とび出しびっくりさせられたり、カメムシ（アオカメムシ）の独特な臭さに気分が悪くなったりして、なれっことはいえ昆虫等との同居のつきあいは大変勇気のいることでもありました。家から一步外へ出れば草深い田舎のことですので、今とは比較にならぬ程たくさんの昆虫や魚がいました。ホタルも、セミも、トンボも、小川のメダカやドジョウも。なにも無くても、自然のなかで動植物を相手に一日中遊び暮すこともできました。

植物採集に凝った学生時代

終戦、復員（数え16才で海軍飛行予科練習生）、学校中途編入、学制改革等戦後数年は国においても、私自身にも大変な時代でした。ちょうどこの時期に校医として在職されておられました植物の研究者鳥居喜一先生の御指導を得ることができ、特に植物分類については山野で実物により詳しく

教えていただきました。私が専ら植物採集に凝ったのも、この時期でありました。当時は交通事情も悪く活動範囲もおのずと限定されましたが、東三河全域、日帰りコースで飯田線沿線の静岡県・長野県の一部の主な所は一応植物採集を行いました。当時は自然保護という言葉もあまり使われなかった時代でありましたので、自由な気持ちで気兼ねすることもなく植物採集に没頭することができました。社会人となってからは職業柄暇も少なかったこともたり、植物採集もめっきり減ってきました年2～3回程度でした。採集した植物標本は未整理のままダンボール箱に納められていますが、その数は目分量で数千点はあるものと思います。数年前、目録だけでも整理しようと手をつけたことがありましたが、今現地で確認することができない植物もかなりあり、標本の整理は今後の楽しみにしています。

植物写真に凝っている現在

植物に凝り始めてから今日まで40余年にもなりますが、趣味の範囲を脱しきれず、徹底した研究もしなかったのが発表できるような実質は持ち合わせていません。また、私の自然へのかかわり方も時代とともに少しずつ変わってきています。自然保護に対する考え方がだんだん強いものになってきており、自然観察会の指導も自然を保護することの大切さに重点を置いています。

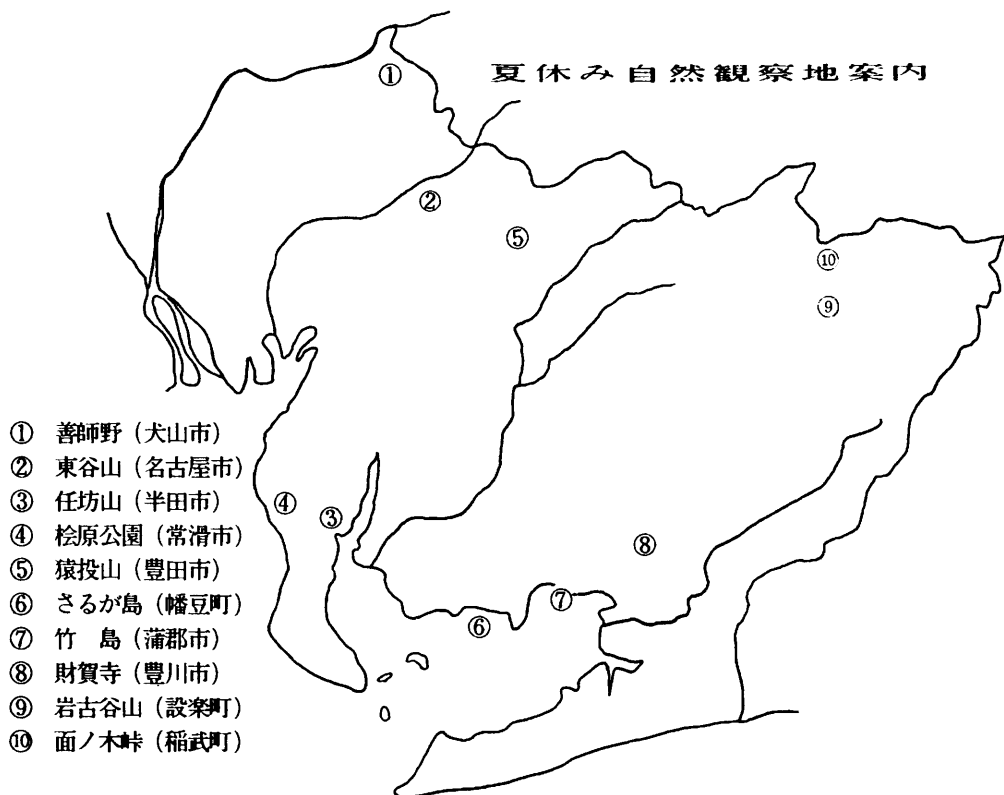
当時あれ程凝った植物採集も、今では罪悪感さえ持つようになってきていますし、そんな関係もあって近年は専ら証拠品は植物写真ということになりました。現在植物写真も芸術的な立派なものはありませんが、ピンボケも含め植物の種数でいえば千点位にはなりましたか。会員の皆さんで御活用のむきがありましたら、いつでも御利用下さい。

人生80年時代の長寿社会を迎え、余暇も増えるものと思います。余暇を上手に使い、私は今はよりの生涯学習の場を大自然に求めたいと思います。

夏休み自然観察地案内

編 集 委 員 会

今回は、夏休み自然観察地案内を特集としました。家族づれで、あるいは子供と楽しみながら、県内の自然の良さを再発見してみませんか。ページが少くて細かい案内ができないのが残念ですが、



1 善師野 (犬山市)

〔コース〕 名鉄広見線善師野駅から白山神社・熊野神社を通して大洞池へ行き、そこから伏屋の集落の横を通して善師野駅までもどる環状コース。

〔交通〕 名鉄広見線善師野駅にて下車、駅の南側の農道駐車可。

〔観察〕 駅周辺の田畑の野草、大洞池周辺のコナラ林、大洞池から流れる川の水生昆虫など一周すると変化に富んだ自然が楽しめる。

*昆虫……イタドリにはカシルリオトシブミ・ヒゲナガオトシブミ、コナラにはヒメクロオトシブミ、クリにはゴマダラカトシブミ・

イクビハマキチョッキリ、ノブドウにはブドウハマキチョッキリの揺籃が観察できる。

ベイトトラップには、クロシデムシ、ヨツボシモンシデムシ、(コブ) マルエンマコガネ、エンマムシ等の腐肉食性昆虫がかかる。

大洞池から流れる川には、サワガニ、ヨシノボリ、ドジョウ、ヘビトンボ、ヤゴ(数種)、携巢性トビケラ(コバントビケラ等数種)等30種近くが棲息している。

*化石……熊野神社の裏の崖で、メタセコイア等の化石が採集できる。

*地質……崖で見られる岩石は、チャート、礫岩、砂岩、泥岩等の堆積岩である。

2 東谷山（名古屋市守山区）

〔コース〕 東谷山フルーツパーク駐車場－愛知用水路……山頂・尾張戸神社……北斜面自動車道…住宅地…フルーツパーク

〔交通〕 JR高蔵寺より2 km、JRバス、名鉄バス東谷橋下車1.2 km

〔観察〕 東谷山は、標高198 mで名古屋では最も高い山で、名古屋のなかでは自然が良く保たれています。

*山頂までの道……コナラ、アベマキ、アラカシ、ソゴ、サカキなどの林で、落葉樹林から常緑樹林へと変わる様相が見られます。また、所々に湿地があり、モウセンゴケ、シラタマホシクサ、ミミカキグサを見ることができます。

*山頂から北斜面の道……頂上周辺にシイ林とアカマツ林がみられ、北面は市内最大の常緑樹林がみられます。頂上からの眺望と帰りのフルーツパークの果樹も楽しみです。

3 任坊山（半田市）

〔コース〕 任坊山公園周辺

〔交通〕 名鉄河和線成岩駅下車徒歩15分

〔観察〕 町の中にある森として、照葉樹林に移りつつある二次林がみられる。近接して、半田市立博物館と半田空の科学館もあるので、そこにそろっている資料も参考になる。

*知多に生える代表的樹木が大部分見られる。

*池に生える水草やカモ類の様子を見よう。

*セミ・バッタをはじめとして多くの昆虫が見られる。

*公園の街灯に集まる虫や鳴く虫を調べよう。街灯の周りが広い芝生で見つけやすい。

4 桧原公園（常滑市）

〔コース〕 桧原公園内

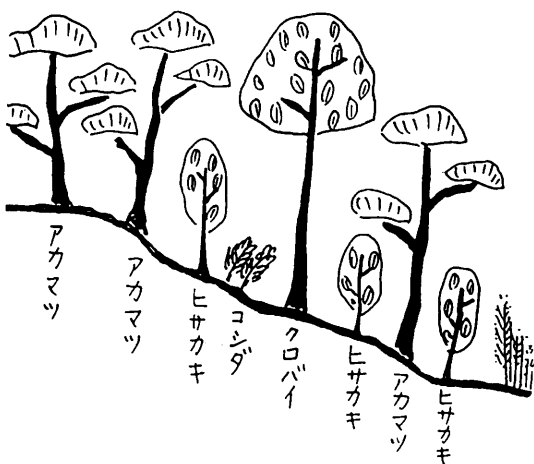
〔交通〕 常滑市古場より車で東へ2 km

〔観察〕 公園入り口の池の中の水生昆虫、池の周りのトンボの観察が良好。コースを歩いていると、ハンミョウが多く見られる。モウソウチク林、アカマツ林の観察も良好。

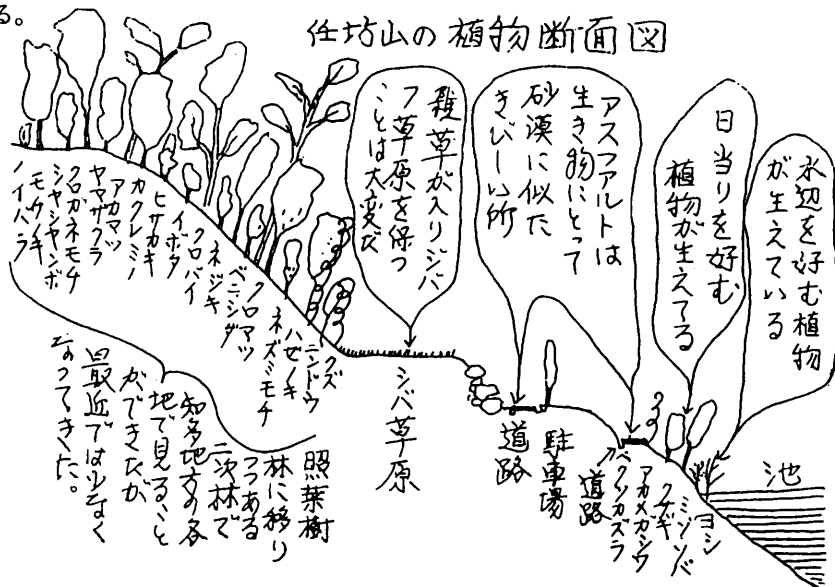
*林の緑に生える植物……ノイバラ、アカメガシワ、タラ、ハゼ等。

*アカマツ林……低い木のヒサカキから高い木のアカマツ、クロバイのある林。

*バッタ、セミをはじめとして、他の昆虫も多く見つけられる。



任坊山の植物断面図



5 猿投山（豊田市）

〔コース〕 猿投山登山口ー広沢天神社ー菊石ー猿投七滝（乙女滝〜二ツ釜滝） 5 km

〔交通〕 豊田市駅発・猿投方面行き名鉄バスで約26分、猿投山登山口下車

〔観察〕 広沢川の清流、猿投山は全山が花崗岩からなる。付近はクロマツ、アカマツの保安林。

＊山麓の植物……田のあぜや山道沿いで植物が環境に適応して生きている様子を観察しよう。

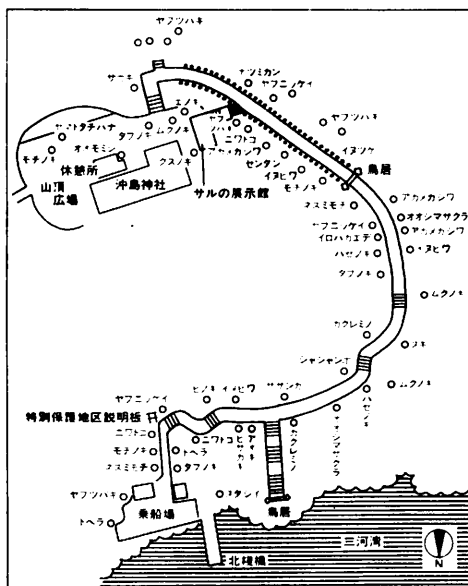
＊昆虫……広沢天神社や西登山道沿いの粘土水車小屋付近では昆虫を探してみよう。モンキツノカメムシ、アオハナムグリ、シマアメンボ等。

＊菊石……広沢川の河床に露頭している球状花崗岩（天然記念物）。黒雲母花崗岩中に径4〜8 cmの白色の菊石紋様が見られる。

＊猿投七滝……広沢川は猿投山塊の断層地帯（猿投境川断層）を経ているため、随所に急落地形がある。連続して現れる滝は涼味満点、七滝のうち最大の広沢滝は菊石の下流になる。

6 さるが島（幡豆郡幡豆町）

〔コース〕 乗船場から山頂広場への散策路。島の西側及び北東の海岸。



園路に沿った樹木マップ

〔交通〕 東幡豆港から名鉄海上観光船で25分（うさぎ島経由）。西浦港からは約10分。

〔観察〕 島全体をうっそうと被っている照葉樹林。りん内には約100頭のニホンザルが棲息している。三河湾国定公園特別地域。

＊植生……島はクスノキ、モチノキ、スダジイ等の常緑の樹林が優先しており、山頂の沖島神社にはタブノキの巨木がある。北東の海岸ではつる性の植物マント群落が見られる。

＊サルの観察……エサを求めて出て来るサルの様子を観察しよう。（山頂広場）

＊昆虫……ヤブニッケイやミカンの木にアオスジアゲハ、モンキアゲハが集まってくる。

＊ハマゴウ……夏に紫色の美しい花をつける海岸植物で西側の広い砂地に大群落がある。

＊磯の生物……海は比較的きれいで磯に変化が多く、生物の種類が豊富。桟橋の周辺では最近、ムラサキイガイが殖えつつある。

7 竹島（蒲郡市）

〔コース〕 新竹島橋から島全島

〔交通〕 J R蒲郡駅南口から徒歩約15分

〔観察〕 暖地特有の常緑広葉樹林と海岸で各種の貝類や藻類の観察ができる。

＊竹島の森……タブ・モチが優占するタブノキ群落で、海岸近くはタブノキ群落、海岸を離れるとシイ群落が見られる貴重な森。

＊崖を被うマサキ、トベラ群落……潮風に強い植物が崖を浸食から守っている。

＊海藻と海草……アナアオサ、ボウアオノリの海藻の仲間、アマモの海草、藻と草の違いの観察。

＊カワウ……知多半島の鶴の山から出張らしい。カモより大きな首の長い水鳥も観察できる。

＊三河湾の姿……島の南岸に立ち東から西の風景を眺める。三河大島・知多半島が一望できる。

＊海食洞……竹島橋のたもとで観察、奥行き3 m程の洞穴は自然の姿そのまま。

8 財賀寺（豊川市）

- 〔コース〕 山門から本堂を経て自然歩道へ
〔交通〕 名鉄国府駅北方 5.5 km（バス運行は
祭礼に当たる毎月25日のみ）
〔観察〕 国の指定文化財の木造金剛力士像と、
智恵文殊様に参拝し、自然を満喫できる
コース。

＊財賀寺の森……見応えあるシイ群落、高木層に
スダジイ、ヤマモモ、亜高木層にヤブツ
バキ、リンボク等草木層にヤブミョウガ、
ウラジロ等、森の構造の観察。

＊本坊の庭園のコケ……裏山の地形を活用した池
と木々、一面のスキゴケは一見に値する。

＊ムササビとニホンザル……ここはムササビが多
いことで有名。日中は無理だが、大木にあ
る巣穴や糞によって観察。ニホンザルも境
内から自然歩道に出没、追わずに静かに観
察しよう。

＊樹液に集まる昆虫……ドングリのなる木やタブ
ノキの木に蛾やクワガタの仲間が見られる。
採集することなくスケッチしたい。

＊池は80万tの貯水量、水の大切さを考えよう。

9 岩古谷山（北設楽郡設楽町）

- 〔コース〕 登山口（堤石トンネル入口）……設
楽城趾……岩古谷山頂……堤石峠……
和市部落

〔交通〕 田口から本郷行豊鉄バスで登山口下
車、ただし、本数が少ないため、自家
用車が便利

〔観察〕 巨岩をぬって歩くスリル（危険は無
い）と岩壁性植物の観察ができる。

＊岸壁の植物……イワシャジン、ダイモンジソウ
等の草木やイワヒバ、カタヒバ等のシダな
どの貴重な植物が、手の届かないところに
多い。夏休みにはイワタバコの花が美しい。

＊尾根のツツジ群落……鳳来寺山から続く岩尾根
で、各種のツツジが群落をなしている。特
に春（4月中～下旬）のアカヤシオ、ミツ
バツツジ、ヒカゲツツジの美しい花が素晴
らしい。

＊尾根からの眺望……山頂からの景色は素晴らし

く、森林の緑（人口林が多い）と街並みと
の調和が大変美しい。風もさわやかで、高
山に登ったような気分が味わえる。

＊東海地方固有の植物……この地域には東海要素
と呼ばれる東海地方固有の植物が多く、当
山塊でもイワシャジン、エンシュウハグマ、
ヤマイワカガミ等がみられる。

10 面ノ木峠ブナ林（北設楽郡稲武町）

- 〔コース〕 駐車場から原生林一周

〔交通〕 公共交通機関はなく自家用車

〔観察〕 愛知県でも最も代表的なブナ原生林
があり、ブナ林固有の動植物がみられ
る。

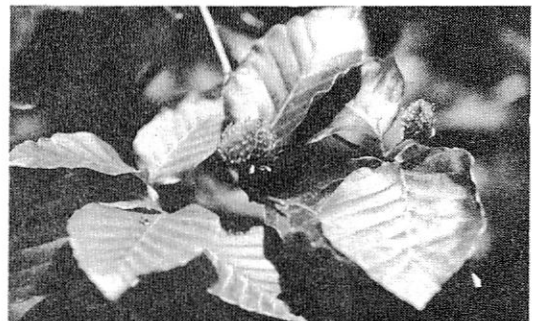
＊ブナの大木……樹齢約 300 年、胸高直径 80 cm の
大木がある。

＊表日本型ブナ林……雪が少ない太平洋側には、
ブナの大木の下にタンナサワフタギ、ヤマ
ボウシ、スズタケ、シコクスミレ等の植物
が成育する表日本型ブナ林が成立する。

＊種類の豊富なカエデ類……わずか 20 ha 程の原生
林で実に 17 種類ものカエデがみられます。
特にメグスリノキの大木は県下随一のもの。
秋の紅葉は格別に美しい。

＊ブナ帯の昆虫……豊かな植物相に育まれて昆虫
も極めて豊富。フジミドリシジミ、オニクワ
ガタ、キヌツヤハナカミキリ等はブナ帯で
しかみられない。夜間ライトに集まる昆虫
の種類もすこぶる多い。

＊霧にかすむブナ林……ブナ林には涼しい気温と
ともに豊富な降水量も必要。低地は晴や曇
でも、ブナ林は霧や雨のことが多く、雨具
は常に必要。しかし、霧のブナ原生林も大
変素晴らしい。





校庭に巣をかける鳥たち

(奥三河支部 藤原優年)

私の勤めている小坂井中学校 (宝飯郡) には、今年も数種類の野鳥が繁殖しているが、その代表的なものはスズメとツバメである。スズメもツバメも人造物に巣を作るが、それ以外の場所での営巣は聞いたことがない。人造物がなかったころ、つまり縄文時代以前はどこに営巣していたのだろうか？ 森や崖、岩のすき間だったのだろうか。どんな理由で人家に営巣するようになったのだろうか。その昔、スズメやツバメは珍鳥だったような気がする。そして人間が田畑をつくるようになってから急に個体数が増えたのではと想像している。スズメやツバメの数は農耕地の面積と比例しているような気がする。

また、校庭にはカワラヒワ、ヒヨドリ、キジバトも繁殖している。キジバトやヒヨドリは、もともと山地で繁殖していたといわれているが、今では庭木や街路樹など手の届きそうな所にも巣がある。そのうちに鉢植えの木にも巣を作るかも知れない。落鳥したヒヨドリの幼鳥を巣にもどそうとすると、親はけたたましく鳴きながら攻撃してくる。彼らの巣材を見ると人工物がかなり使われている。巣の形は昔のそれと同じだと思うが、使用する材料が変化すると、巣の形も進化(?) していくかも知れない。本校は街の中に位置しているが、繁殖の季節にはさわがしいぐらゐの野鳥たちの鳴き声を楽しませてくれる。

しかし、困りものの鳥も住みついている。ドバトである。通路や出窓など所かまわずフンをする。美観をそこなうし、何とかならないものかと思う。フンの主ドバトは、品種改良した鳥であり、日本の生態系の中には存在しない方がよい鳥である。人間が造っておいて勝手な話であるが、ドバトを何とかしなければ、本来の野鳥やその他の生物に、近い将来少なからず影響を与えるようになるだろうと思う。

散 歩 の 風 景

(尾張支部 橋本 哲)

我家は、山を越すと岐阜県の大垣市に至る春日井市の北東の外れの端っこにあります。このため、歩いて5分もしないうちに景色は住宅地の風景から田や畑がある山里風景に変わります。ここに引っ越しをしてきてから5年以上になります。

3月上旬になると水路の周辺や田の耕作放棄地にツクシが見られるため、毎年そのところになると子供に催促されて、ビニール袋を片手にツクシとりにでかけます。

今年は暖冬のせいで1月下旬にもうツクシをみつけました。タンポポの花も咲いていました。

ふつうは、日曜日の散歩コースとして、春はツクシのほかにワラビ、セリ、ノコンギク、アケビの新芽等を摘み、おしたしにしてポン酢かマヨネーズをかけて食べます。今年は、この地域の春の風景がどのくらいのテンポでどのように変化をしていくかについて多少意識して散歩を続けました。

4月上旬の田園風景は畦の周辺にはタンポポを始め、レンゲ、タネツケバナ、ムラサキサギゴケ、ホトケノザ、ナズナ、スギナ、オオイヌノフグリなどの花がよく目立ちました。田の中はというと、タネツケバナ、スズメノテッポウがほとんどで、特にスズメノテッポウがよく目立つのが印象的でした。このスズメノテッポウは畦の周辺や土手、道路際などには殆ど目につかないのに田の中では大群落を作っているのです。これは、春日井市のこのあたりだけの事かと思っていたら三重県の北部や岐阜県の西部でも同様の傾向がありそうでした。何故スズメノテッポウは田の中に特に多いのか今後その理由を調べてみようと思っています。

また、この田園風景は、2週間程度のサイクルでその風貌を変えていくようです。4月中旬になるとハハコグサが目立ち初め、ホトケノザやナズナは全く目立たなくなります。続きは次の機会にまた報告します。今後できるだけテーマを持って散歩を続けたいと思っています。

勝手な解釈

(知多支部 降幡光宏)

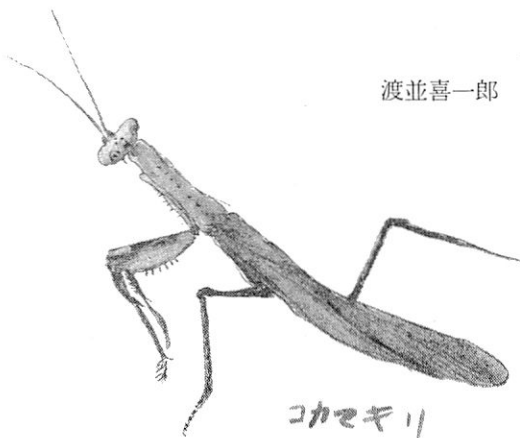
昭和56年に自然観察指導員の講習を受けた当時を振り返ってみると講習を受ける前は山に出かければ草木を自由に持ち帰り、名前を調べたり栽培していたものです。また山の木の実、山菜、キノコを、海では魚、貝類、海草を採集をし、よく試食をしたものです。そんな事をすることによって自然に対する知識・理解が深まると思い自分では大いに自然に親しんでいることに満足していたものです。ところが自然保護協会の講習を受けてから自然に対する考え方が大きく心変わりしました。自然保護について精神教育を受け保護に関する意識が向上したものです。受講直後は潔癖過ぎるくらいになり、人前ではもちろん一人のときも動植物の採集は一切せずに眺めるだけとし、林の中へ踏み入ることも遠慮したものです。

現在、当初の潔癖観が薄れてきたことは確かですが最近、遊びを取り入れ自然に親しむ事になっています。ここ4、5年の間に私が住む回りに農

業の構造改善事業により森がなくなりました。そこでせめて自分も楽しみ相手も楽しめる森を残したい？、実に勝手な解釈だとは思いますが……。

今回のリレー投稿は、妹尾幸雄（名古屋支部）、星野芳彦（東三河支部）、山内照子（知多支部）の各氏に執筆をお願いします。

(原稿〆切：9月15日 北岡明彦まで)



渡並喜一郎

カマキリ



おたよりコーナー

「ネイチャーゲーム」で自然に近づく
(知多支部 柳川菊蔵)

もっぱら、子供の文化活動をライフワークとしている私の関心事は、子供と自然とをどう出会わせ、何を印象づけるかであった。とりわけ五感のすべてによってありのままを感じ、自然界の根源的なものに近づく術はないかと考えていた。

というのも、自然を単に活動の場とするだけの野外活動には、自然への感動を保護教育に結びつける術は期待できないと感じてきたからである。生命を育む総体としての自然は、その循環の過程に自らを置いてこそ、認識することができると思えたからである。

私のこのような稚拙な考えを具現する活動へと導いてくれたのは、ジョセフB・コーネル著『ネイチャーゲーム』であった。この本には、自然認識学の立場から、彼自身が創作した、い

くつかの自然観察ゲームが紹介されている。

これらのゲームによって新鮮な感動を持って自然と出会う。あるゲームでは人間が野生動物となって自然に近づき、あるゲームでは森の木になって自然と語ろう。そこでは、今まで見えなかったものが見え、聞こえなかったものが聞こえてくる。そうして未知なる自然と遭遇し、自然は人間にとって外界ではなく私達を育む世界そのものであることに気づいていく。

実際このゲームを体験させた時、子供達の自然への興味は大きくなっていった。それは単に知識欲や探究心からではなく、自然への畏敬の念からであるように思えた。

このようにして、私のような専門知識がない者でも自然界への道案内人となることができる。なぜなら、自然の方から姿を表わし、そのすべてを語ってくれるからであり、私達は自然を受け入れる用意をし、静かにじっと待てばよいのである。

全県一斉自然観察会における調査結果報告

運営委員会

去る6月4日(日)に県内7か所で同時開催した環境週間全県一斉自然観察会には、全体で指導員69名(岐阜県4名を含む)と参加者353名が集まりました。昨年は指導員71名・参加者148名でしたから、全体では参加者は大幅に増加していますが、開催地毎の隔差の大きいのが目につきます。

支部別の開催場所と参加者数

支部	場所	指導員	参加者	備考
名古屋	守山区小幡緑地	2	10	
尾張	犬山市善師野	26	280	共催犬山市
知多	半田市任坊山	8	11	後援半田市
西三河	愛知こどもの国	10	7	
東三河	豊橋公園	12	22	後援豊橋市
奥三河	鳳来町湯谷	5	2	
協議会	稲武町面ノ木峠	6	53	全国一斉観察会
計		69	385	

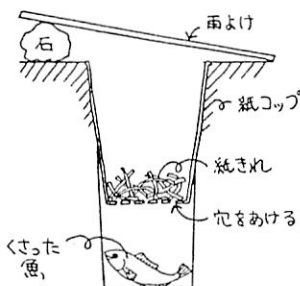
運営委員会から事前に各新聞社に行事案内掲載を依頼したせいか、6月5日朝日新聞(名古屋・尾張・三河版)と6月6日中日新聞(尾張版)に写真付きで大きく記事がのり、協議会のPRには成功したと思われます。

今回の観察会ではテーマを「水について考える」とし、必須メニューとして「森の掃除屋調査」と「水生昆虫調査」をくみこみました。その結果をまとめてみましょう。

1 森の掃除屋調査

森の掃除屋調査は

昨年同様ベイトトラップにより得られたシデムシによる環境評価を行いました。シデムシは周囲の環境によって生息する種類が変わり、環境指標生物として有効なことが知られてい



ベイトトラップの仕組み

ます。今年は昨年に比べて自然環境に恵まれた地域での開催が多かったせいか、良好な環境を示すシデ

シデムシの種類	環境	A	B	C	D
クロホシヒラタシデムシ		○	×	×	×
クロシデムシ		○	△	×	×
ヨツボシモンシデムシ		○	△	×	×
マエモンシデムシ		○	△	×	×
ヤマトモンシデムシ		○	△	×	×
ヒロオビモンシデムシ		○	△	×	×
ベッコウヒラタシデムシ		○	△	×	×
ヒメヒラタシデムシ		○	△	×	×
コクロシデムシ		○	○	○	×
オオヒラタシデムシ		△	○	○	○

A: 広い森林がある地域

B: 虫くい状に森林が残る地域

C: わずかに森林が残る地域

D: 市街地

○: 生息

△: わずかに生息

×

×: 生息しない

シデムシの生息と自然環境

ムシ(上表参照)であるクロホシヒラタシデムシ・クロシデムシ・ヨツボシモンシデムシが3か所で見られました。犬山市善師野では、アベマキコナラの二次林に設置した1個のトラップに大型のクロシデムシが3匹も入りました。また、面ノ木峠ブナ林で見られたクロホシヒラタシデムシは寒地系の珍しいシデムシで、愛知県ではまだ正式には記録されていないと思われます。面ノ木峠では前夜のライトトラップに飛来した種類も含めると4種類が確認でき、さすがに原生林は生物相が豊かだといえそうです。



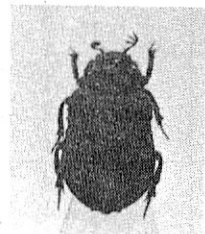
クロシデムシ

また、同じく良好な自然環境(自然度の高い草地を含む)を示すと言われるオサムシ(ミカワオサムシ)も3か所で得られました。

その他、各支部からの調査表をまとめていておもしろかった点をいくつか紹介します。

尾張支部の善師野では、新鮮なイワシと完全に腐ったイワシを1個ずつ設置したところ、前者にはシデムシ0、ゴミムシ15、後者にはシデムシ3、ゴミムシ3と落下し、各種類のし好の違いを示しているようです。東三河支部の豊橋公園では、イ

ワシ（9個）と豚肉（6個）を設置しましたが、シデムシはイワシだけに落下し、オサムシは豚肉に落下しました。これもし好の違いかもしれません。



左図は面ノ木峠のトラップ（2週間前に設置したイワシ）に1匹落下したムツコブスジコガネ（コブスジコガネ科）

ですが、山地帯から亜高山帯ムツコブスジコガネに生息する寒地系昆虫で、これもまた愛知県初記録の種類です。

こうしたベイトトラップによる調査をもっといろいろな所で実施すると、愛知県における「シデムシの種類と環境の関係」や「森の掃除屋の顔ぶれ」が明らかになってくると考えられます。

2 水生昆虫調査

水生昆虫調査は今年初めて実施したのですが、事前の連絡調整が不充分だったため、4か所でしか行なえず残念でした。しかし、調査した4か所は周辺の自然環境が全く異なり、それに応じて水生昆虫も変化する状況がよくわかりました。

各調査地の概要は次の通りで、人間生活の影響（特に汚排水）は、面ノ木峠<湯谷<善師野<豊橋公園の順となり、水質の汚染もそれに比例しているものと考えられます。

- ①面ノ木峠……ブナ原生林内を流れる源流域
- ②湯谷……岩盤上を流れる中流域
- ③善師野……池から流れ出す細流
- ④豊橋公園……河口に近い下流域

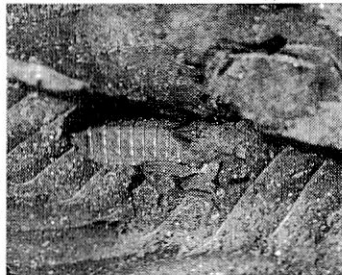
まず観察できた動物の総種類数は、①31種、②15種、③24種、④13種でした。源流域での種類の多さが目につきます。

しかし、種類数以上に、出現した動物の内容に大きな違いがあります。特に④は河口近くで海水



水生昆虫の観察（犬山市善師野）

の影響を受けるため、セイゴ・イシガレイといった海水魚やチゴガニ・ゴカイ等が見られました。一方、面ノ木峠では、真の源流域で水温も低いと生息できないハコネサンショウウオやトワダナガレトビケラが見られ、面ノ木峠と湯谷では水が極くきれ



いでないと棲めないムカシトンボが見つかりました。善師野ではきれいな水に棲むコカクツツトビケラやエルモンヒラタカゲロウと汚れた水に棲むミズムシやシマイシビルが一諸に見られました。ちょうどきれいな水と汚れた水の間位置するということでしょう。

また、カワゲラ類は大部分が肉食性で、きれいな水域程その種類数は多いといわれていますが、①5種>②2種=③2種>④0種という調査結果になりました。

水生昆虫調査もまた、いろいろな河川のいろいろな流域で実施するとおもしろい結果が得られるでしょう。

3 観察会と調査

昨年からはじめた全県一斉自然観察会では、昨年3種類（ベイトトラップ・咲いている花・野鳥）今年は2種類（森の掃除屋・水生昆虫）の調査を一諸に行いました。これは、「せっかく協議会として県下各地で同時に観察会を行うのだから、何か結果がまとまり、各々の開催地の地域性が出る調査を行なおう。」という発想で始めたものです。

調査結果は今まで報告したように、一応地域性が出たものになっていますが、どうしても各支部間の精度にばらつきが出てしまいます。特に指導員の少ない支部では観察会自体の運営に手一杯で調査まで手が回らない場合が生じたり、実施内容や実施方法の連絡調整がうまくいかなかった支部が出たりしました。

来年以降もこういった調査を実施するならば、その目的・内容・方法・まとめ方等についてもっとじっくり検討協議する必要があるようです。

ベイトトラップ調査結果一覧表

種 類	小 幡 緑 地	善師野	任坊山	こども の 国	豊 橋 公 園	湯 谷	面ノ木	出 現 か所数
シ デ ム シ	クロシデムシ	○		○			△	3
	ヨツボシモンシデムシ						○	1
	クロホシヒラタシデムシ						○	1
	オオヒラタシデムシ			○	○			2
	オオモモトシデムシ						△	1
ゴ ミ ム シ	ミカワオサムシ	○		○	○			3
	マイマイカブリ (幼)			○				1
	ゴミムシ類	○	○	○	○		○	5
コム ガ ネ シ	ムツコブスジコガネ						○	1
	センチコガネ				○			1
	エンマコガネ類		○		○	○		3
そ の 他 昆 虫	チビシデムシ類		○				○	2
	エンマムシ類		○				○	2
	ハネカクシ類	○	○		○	○	○	6
	ア リ 類		○	○	○	○		5
	ハサミムシ類		○	○				2
そ の 他 動 物	ク モ 類			○			○	2
	ザトウムシ類				○			1
	ムカデ類			○				1
	ダンゴムシ類			○				1

(注) △ は前夜ライトに飛来したもの

観察あれこれ

手 作 り 名 札

観察会の準備をされていて毎回悩むことのひとつに名札をどうしよう？というのがあります。

特に小人数の班編成の時には、名札が有効なコミュニケーション手段となり、観察会の終盤には互いに名前を覚えることもできます。

いくつかの支部ではプラスチックの名札を購入して使っていますが、私はやはり手作りの名札がいいのでは？と思います。

そこで、本年度の全県一斉自然観察会を面ノ木峠で実施するにあたり、奮発をして右図のような手作り名札を作ってみました。

材料は色画用紙3枚(青・黄緑・茶を各1枚)と安全ピンだけで、あとは根気だけです。

面ノ木峠観察会は3班編成(班の名前もブナノキ班、オオルリ班、ノウサギ班と趣向をこらしてみました。)で各20名を見込みました。

①まず厚紙に3種類のカットを書き、切り抜く

②それを型紙として色画用紙に縁取りをする

③ハサミで切り抜き、裏にセロテープで安全ピンを止める

手順は以上の通り簡単なのですが、何しろ手間がかかります。今回は60個作るのに3時間以上かかり、どっと疲れしました。

それでも観察会の当日に班分けしながら参加者に名札を手渡す時に、「ウワッ、かわいい！」と言ってもらえれば、もうニコニコです。

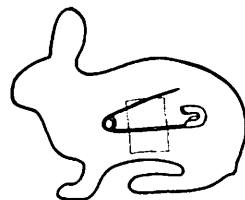
(北岡明彦)



ブナノキ班 (黄緑色)



オオルリ班 (青色)



ノウサギ班 (茶色)

支部だより

名古屋支部



なんじゃもんじゃ通信 梅雨が明け、暑い夏がやってきました。夏は暑いのはあたりまえなんです、今年の夏はとくに暑いようです。会員のみなさんも暑さに負けないようにがんばりましょう。
* 7月の例会7/19(水)「面ノ木峠のブナ林」

講師 北岡明彦

* 8月の例会8/16(水)題未定 講師 浅井常典
〈東山自然観察会〉毎月第3日曜a.m.9:30

植物園ロータリー南300m集合

7/16(日)「東山スカイタワーウォッチング」

8/20(日)「八事裏山湿地のサギソウと食虫植物をみよう」 武田 (0564-21-4405)

〈藤前千潟生物調査・観察会〉8/20(日)12:00~

問い合わせ先 太田 (052-793-7690) まで
〈'89水冒険陸内川ボートウォッチング〉8/27(日)

連絡先 矢田・庄内川をきれいにする会

代表 宮田照由 (794-3876)

〈天白公園自然に親しむ会〉

毎月第4日曜 奥田 (801-1554) まで

〈平和公園自然観察会〉

毎月第2日曜 滝川 (781-2595) まで

〈日進植物同好会〉9/10(日) 県農業試験場

亀井 (05617-3-3106) まで

〈セミの羽化とお堀の観察〉7/24(月)p.m.

4:00名城公園にて朱雀 (911-5087) まで

〈国際・千潟シンポジウム〉9/16・17(土・日)

辻 (702-2477) まで

尾張支部

5月14日(日) 支部観察会 犬山市八曾溪谷
好天に恵まれた月例観察会は、子供を含め25名と久しぶりの大にぎわい。テーマは「夏鳥のさえずりと新緑ハイク」。

各所にカラコギカエデ(愛知県では八曾溪谷以外は極稀)が目立ち、林道に入ったすぐの路肩の塀にオオルリの巣があるのを、岩崎さんが発見。メスが緊張した顔で卵を抱いているのが健気!



カラコギカエデ

溪谷沿いは人工林が多く、植物はあまり豊かではなく、ガンドガマのミヤマヨメナがかわいく咲いていました。

6月11日(日) 支部観察会 春日井市内津神社

この日のテーマは「シイの花に集まる昆虫」でしたが、暖冬の影響か、すでに花は咲き終った後でした。よく集まる虫として、ヒメハナバチ・ハナムグリ・ハナカミキリの仲間を何種か調べておきましたのでがっかりしました。そのかわりにクリの花が満開で、ヒメクロトラカミキリ・ナラリオトシブミ・ヒラタハナムグリなどが観察できました。

植物では、内津神社付近にツブラジイの森が残っていました。林床には幼木も生育していることから、これからも維持されていくものと考えられます。また奥の院付近はツブラジイ・ツクバネガシの照葉樹林でおおわれ、厳かな雰囲気を感じていました。その他にも尾張地方では珍しいクロソゴヤ、コウヤマキ大木(植栽?)から落ちた大きな松ボックリが目につきました。

奥の院からの帰り道にクリの花へ飛来したチョッキリの1種を捕えました。美しい燈色の新種に大喜びで名前を調べましたら、チャイロチョッキリとありました。いかにも平凡な名前がつけられており、この虫にはちょっと気の毒な気がしました。

7月9日(日) 支部観察会 犬山市継鹿尾

大雨が予想される悪天候にも負けず継鹿尾山寂光院に集合したのは6名。

空を見上げながら協議した結果、有志により大竹会長が勤務する「日本モンキーセンター」訪問することに決定。

ちょうど大竹会長勤務の日で、無料かつ名解説員付きのモンキーセンター観察会となりました。マーモセット類の声がミソサザイのさえずりと似て可聴範囲を越えることにびっくりしたり、奇抜なファッションセンスに喜こんだりしました。

一番おもしろかったのはやはり類人猿で、チンパンジーの父子がぶざけあう仕草とオランウータンがつばを吐きかけたり泥をすくって投げつけたりする姿に笑ってしまいました。

結論:雨の日の観察会もまた楽し。

東 三 河 支 部

4月2日(日) 第2回会員研修会 田原町黒川
原湿原・蔵王山 参加4名

シデコブシの花も散る寸前でしたが、いろいろ
楽しく観察できました。

4月30日(日) 県委託自然観察会 豊橋市高塚
豊橋市の太平洋に面した伊古部町高塚海岸で実
施しました。県からは参加者数が少ないとの情報
で心配していましたが、支部から過去の自然観察
会参加者等に葉書紹介等で勧誘した結果、66名の
参加者が集まりほっとしました。

天候にも恵まれ、2回の下見の成果で順調な観
察会となりました。特に貝の化石に関心がありま
した。遠く知多や名古屋からの参加にびっくりし
ました。

なお、朝日新聞とNHKテレビの取材がありま
した。

6月4日(日) 全県一斉観察会 豊橋公園

一般参加者20名。豊橋公園は都市化の進んだ街
中に残された自然の中で、テーマは「水」でした。
水の汚染や親水に関心があるというアンケート結
果がでました。

6月11日(日) 第3回会員研修会 豊橋市賀茂
しょうぶ園とホテルをみる会

参加者は会員7名、一般7名でした。

ホテルも探さなければ見られず、また、特定の
場所でなくては見られないとは、つくづく情けな
い時代になったものだと感じました。

調査員大募集!

第2回アミメカゲロウ羽化状況調査

昨年に引き続き“自然の驚異アミメカゲロウ
大発生”の調査を行います。今年は幼虫の
分布調査と水中からの羽化の状況観察も行い
たいと思います。

場所は庄内川吉根橋を中心とし、集団羽化
は9月5日頃が見込まれます。

水銀灯に集まってくるアミメカゲロウの大
集団は、それだけで一見の価値があります。

希望者は是非北岡まで御連絡下さい…………

協議会行事報告

理事会 5月13日(土)

岡崎市竜美ヶ丘会館で、16名の出席を得て行い
ました。今回から会計の斎竹さんと書記として国
枝さんが理事会に加わることとなりました。

最初に、6月4日の全県一斉自然観察会につい
て打合せました。この時に6月4日が環境週間の
前日に当たることに気がつきましたが、環境週間
にちなんでということで予定どおり実施すること
としました。テーマは「水について考えよう」と
し、水生生物を統一調査として実施することにし
ましたが、知多と西三河支部は適当な川がなく、
ため池について一般的な観察を行うのみとしまし
た。来年も実施するとしたら、早めに内容を定め
る必要があると感じました。また、統一アンケート
についても種々意見が出されました。結局は、
統一観察会の目的・内容の検討を十分行わなかつ
たことが原因のようです。

次に、県から受託事業として作成する「四季の
自然観察」の夏編の内容について意見交換を行いま
した。

その後、来年で10年目を迎える協議会のあり方
や10周年記念行事について検討する予定でしたが、
時間がなくて若干の意見が出されただけでした。
大きく10周年記念行事を行いたい気持もあるの
ですが、それより協議会の日頃の活動を充実させる
ことも大切なようで、会員の皆様の意見を聞きたい
ところです。

運営委員会 6月24日(土)

名古屋市栄近くのきむら書房で、会長、副会長
を含む10名の委員により行いました。

始めに、全県一斉自然観察会の実施結果につい
て検討しました。P. Rのむつかしさもあって、
参加者が少く、犬山市と共催の善師野280名によ
って何とか全体で420名余という数字になりました。
しかし、今回は朝日新聞が大きく記事にした
こともあって、一応は成功といってよいでしょう
か。観察会のテーマの定め方、内容の検討、指導
方法の検討など、もっと意見を交す必要もあった
ようです。一味違う協議会の自然観察会というに

は、まだ多くの努力がいるようです。

次に、今後協議会が行う研修会の進め方について検討しました。特に、11月に行う指導員研修会は、指導員活動を行う上で役に立つものとするためいろいろの意見が出されました。今回は、自然観察会のプランニングを中心として、指導ポイントの定め方、指導方法のシナリオづくりを中心とし、自然保護に関する最近の情報や外部講師による磯の観察などを行う案となりました。詳細は、さらに運営委員会で検討する予定です。

次に、協議会の10周年行事については、経費や運営者の問題もあり、いくつかの案をまとめてから検討することとした。

また、自然観察指導員の再登録に際して、日本自然保護協会の会員になることが義務づけられたことに対して、協会に例外措置を設けるよう要望した結果、地元協議会を通せば必ずしも協会の会員とならなくてもよいとの返事がありました。

自然観察指導員として活動するに際して、日本自然保護協会の意志を尊重する必要はありますが、それ以上に、自然観察指導員として何をなすべきかを1人ひとりが考えていくことが大切であり、その考えを交換し合う場としても協議会の役割があるでしょう。

運営委員会 7月15日(土)

名古屋市教育館で、4名により開催しました。

次回に会員へ配布する予定の「自然観察会実施マニュアル」の最終検討を行いました。これは、自然観察会を企画する場合の手引書としてまとめたもので、今までの協議会が行ってきた観察会の運営方法を整理してみました。

自然観察会は、集って楽しくやればよいのであり、特に運営に関して考えるのはめんどろとの意見もあるでしょうが、自然観察会の効果を高め、事故等の不祥事を避けるには最低限留意することもいくつかあります。委員会でも事故対策や保険の内容についていくつかの意見が出されました。今回まとめたものにも不十分な点があるでしょうが、とりあえず第1段階として、今後会員からの意見により、より良いものに直していく予定でいます。

自然観察会実施マニュアルの次には、「自然観察指導マニュアル」を作ろうということで、その内容を検討しました。

自然観察指導員の講習会後相当の期間がたって、その内容を忘れてしまった会員も多いでしょうし、観察会でどのように指導したらよいか、その手がかりがつかめなくて困っている会員もいるのではないかとということで、いくつかの事例により観察指導の方法をまとめてみようというものです。項目ごとに分担して書いた後、運営委員会で数回検討し、来年の春頃に会員の手元へお送りしようという計画です。

その他、研修会の内容、指導員再登録に関することを検討しました。

視察研修会(中央アルプス千畳敷等)

7月22日～23日

子供7名を含む19名により、家族旅行の雰囲気で行いました。

22日は、伊那谷与田切川の上流にあるシオジ平で、林道沿いの植物や昆虫、ブナ・ミズナラ林の植物の観察を行い、翌23日はロープウェイで千畳敷へ上り、極楽平までの高山植物を観察しました。

今年は雪が多く、千畳敷にも残雪が多くありました。雲の多い天気にもかかわらず、宝剣岳など周囲の景色も見え、コマウスユキソウの美しい姿に感動したりして楽しい2日間を過ごしました。

日本自然保護協会の研修

※ネイチャーフィーリング

(体の不自由な人との観察会指導のために)

○元年10月20日(金)～22日(日)

○横浜市 こどもの国自然研修センター

※自然観察指導員養成スタッフ研修会

(自然観察指導員講習会の講師を養成するための研修会)

○元年11月17日(金)～19日(日)

○横浜市 こどもの国自然研修センター

希望者は必ず佐藤まで

行事案内

8・13(日) 尾張支部 月例観察会 設楽町段戸裏谷駐車場(段戸湖畔)10:00 (テーマ) 避暑を兼ねブナ林ウォッチング
8・19(土)～20(日) 協議会 樹木分類研修 稲武町面ノ木峠のブナ林、豊根村茶臼山の ウラジロモミ林及び豊根村尹良神社の国指 定天然記念物ハナノキの観察 (テーマ) 樹木分類の基本とカエデの分類 (集合) 19日 10:00面ノ木峠駐車場
9・10(日) 知多支部 緑の少年団交流会 武豊町自然公園駐車場 9:30 指導員派遣観察会
9・10(日) 尾張支部 月例観察会 犬山市池野ヒトツバタゴ自生地 9:00 (テーマ) 江戸時代の尾張本草学をしのぶ
9・15(金)～17(日) 自然観察指導員講習会 (場所) 南設楽郡鳳来町 愛知県民の森 2年に1度ずつ県主催で開く講習会
10・8(日) 協議会 樹木分類研修 Part II 第1回の温帯性樹木に続き、今回は暖帯の 照葉樹林の樹木を渥美町泉福寺他で観察 (集合) 渥美町役場駐車場 10:30 (申込み) 佐藤国彦か北岡まで
10・15(日) 名古屋支部 県委託自然観察会 長久手自然歩道 10:00 (テーマ) 秋の雑木林にあるもの(予定)
10・29(日) 知多支部 指導員派遣観察会 東海市大池公園動植物資料館 9:30 主催東海市

◎会員異動

《脱退》永津雅人(埼玉県へ転出)

お知らせ

◎ 講座研修「樹木分類研修 Part I」

今年から始まる樹木分類研修の第1回を8月19日(土)～20日(日)にかけて行います。

今回は植物分類の基本的な事項の説明とカエデ類を主に勉強します。これから植物の分類をしてみようという人にも最適です。

宿泊は茶臼山麓の民宿で、会費は7,000円です。

詳細は佐藤国彦さん(05617-3-5674)又は北岡まで御連絡下さい。 至急!

◎ 指導員の登録について

平成元年度から自然観察指導員の再登録を行う場合は、日本自然保護協会の会員となることが条件となりましたが、この程、地元協議会の推せんがあれば必ずしも日本自然保護協会の会員とななくても再登録できるよう例外措置が定められました。

協議会としては、8月中に未登録者に対して、個々に再登録するかどうか照会させていただき、改ためて再登録を希望する方をまとめて、9月初めに手続きする予定です。不明の点がありましたら、佐藤国彦まで御連絡ください。

【編集後記】

今号は、夏休みを迎えて家族連れて自然観察やハイキング等を楽しめる場所の紹介をしました。愛知県内にはまだまだ多くの自然が残っており、遠くへ行かなくても充分楽しむことができます。

夏休みは家族連れでフィールドにでることができます。特に子供の目は新鮮で、新しい発見をしてくれることがよくあります。

お父さん指導員、お母さん指導員も時には家族連れで自然観察しましょう。(北岡)

編集事務局：瀬戸市柳ヶ坪町98-5

北岡明彦 (0561) 84-2953